2020年度図書館リニューアル状況

取り組み前 → **取り組み後**

入口の工夫

立寄りやすい雰囲気へ

ブラインド常に下がっており中の様子がわからない状況を改善しました。

廊下側からの様子。閉ざされた印象がありました。

窓ガラスの面積を最大限に利用し廊下側から館内の様子がわかる開放的な空間へ改善しました。

手書き看板は皆さんが楽しめるよう新たに設置し、毎回工夫を凝らして制作しています。

廊下側から展示が見えるよう工夫した。
※写真は学生が作成したおすすめ本POPが見えるようレイアウトしています。

館内の工夫

館内備品有効活用

ゲート以外の場所を通行不可とするため、プランターラックで封鎖していた。
またラックの有効な活用方法を検討していました。

「グループ閲覧室」の広い空間を活用し、来館者の増加につながる工夫を検討していました。

使用していなかったショーケースをプランターラックのスペースへ。廊下側からも利用者に見えるよう設置しています。
館内ロビー展スペースとして改善しました。
(現在は、2019年度POPコンテストの受賞作品を展示中)。

『グループ閲覧室』のPCを　2⇒6台へ
プリンターを　1⇒2台へ　増設。
学生の図書館内での研究や、調査に必要な検索を目的としたPCとして利用促進を図っています。
またグループ閲覧室は職員による利用ガイダンス等を実施しています。

新着本・展示等館内の様子

新着図書棚に展示しきれない本は、ブックトラックを使用していましたが、他の方法を検討していました。

閉じ切ったブラインドは館内から見ても圧迫感がありました。

大型本専用棚の上がデッドスペースとなっているため、活用方法を検討していました。

プランターラックを活用し、新着本をアピール。棚の素材を統一し、立ち寄りやすい雰囲気へ。

円型の記帳台の運用を見直し、効果的に展示をPRするスペースへ生まれ変わりました。

デッドスペースを活用し、おすすめ本の展示。学生や図書館職員の手作りPOPで興味を引く工夫をしています。

学生作成のおすすめ本ポップと、開けたブラインドから廊下が見える様子。解放感がアップし快適な空間へ改善しました。

新たな試みとしてテーマに応じて様々な図書をPR。写真は『特徴ある装丁の本フェア』。展示方法の工夫や個性的な手作りのPOPを活用したイベントを開催しています。